

「住んで楽しいまちづくり」の実現にむけて

米子市長

明けましておめでとうございます。

皆さまが健やかに新年を迎えられますことを心よりお喜び申し上げます。

私は、昨年4月に市民の皆さまの信託を受けて市長に就任以来、「住んで楽しいまちづくり」を掲げて市政運営に取り組んできました。本市が直面する課題は種々ありますが、引き続き

開かれた議会をめざして 米子市議会議長

新年あけましておめでとうございます。

市民の皆さまには、輝かしい平成30年の新春を穏やかに迎えるのことに、心よりお喜び申し上げます。

昨年を振り返りますと、国内では、景気は緩やかに回復基調が続いているものの、TPP対策、教育無償化、北朝鮮の核ミサイル問題など多くの課題に直面するとともに、大企業の巨

き、就任当初の気持ちを忘れることなく、市政のかじ取り役という重責を担っていく覚悟です。さて、昨年の本市を振り返りますと、水道局の新庁舎が完成し、災害時においても水道ライフラインの復旧活動の拠点となるよう耐震化された施設となりました。また、史跡米子城跡保存活用計画を策定し、現在、「米子城魅せるープロジェクト」と題した魅力発信事業を実施しており、今後も広く米子城跡ファンを増やしていきたいと考えております。このほか、米子

駅周辺および角盤町エリアの活性化等、さまざまな課題についても、一歩踏み出すことができたと考えております。

本年は、引き続き、待機児童を解消するための施設整備を行なうほか、5歳児健診を全ての子どもを対象に実施する予定としており、子育てしやすい環境のさらなる充実を図ってまいります。

米子駅南北自由通路等整備事業については、自由通路の詳細設計を行なうこととしており、県、JR等関係機関とも協力し

新年のごあいさつ

額損失、はじめによる小・中学生の自殺、子どもや女性に対する暴行・虐待などの社会経済問題が顕在化した一年でありました。

一方、本市に目を向けますと、依然として厳しい財政状況にある中、地域社会を取り巻くさまざまな問題に対処するため、子育て支援、福祉の充実、産業振興などの諸施策の推進に取り組み、米子駅南北自由通路等整備事業にかかる都市計画決定、史跡米子城跡保存活用計画の策定など、新しいまちのかたちが見

え始めた年でありました。

人口減少、高齢化が進む中、私たちのような地方都市においては、地域の活力の低下が懸念されるところであり、今後においても、生活機能を確保して、安全で暮らせる時代にあつたまちづくりを推進しなくてはなりません。近年、議会においては、地方公共団体の意思を決定する機能および執行機関を監視する機能だけでなく、政策提案や条例の制定などの政策立案機能の充実強化が求められています。引き続き、市民の皆さまの多様

ながら、本市の玄関口としてふさわしい駅周辺となるよう、着実に事業を進めてまいりたいと考えております。荒廃農地対策についても、少しずつ成果に結びつく取り組みを進めてまいります。

また、本年は、大山が開山されて1300年の節目の年でもあります。伯耆国「大山開山1300年祭」の開催や、「山の日」記念全国大会などを通して、大山や本市を含めた周辺エリアの価値や魅力を国内外に広く発信していきたいと思っております。

ります。

今後も、自然豊かな環境や暮らしやすさなど、本市の持つ魅力を生かしながら、米子が健んで楽しいまちになるよう、市民の皆さまとともにまちづくりに取り組んでまいりたいと思っております。市政へのさらなるご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、この一年が市民の皆さまにとって、ご健勝でご多幸な年となりますよう心よりお祈り申し上げます。年頭のごあいさつといたします。

改革を進めてまいります。

山積する多くの課題の解決に向け、市議会といたしまして一層その役割と責任の重さを自覚し、新たな時代感覚と崇高なビジョンを持って市政の一翼を担ってまいります。ご協力を賜りますよう、よろしくお祈り申し上げます。

結びに、市民の皆さまにとりまして、本年が明るく幸多き年となりますよう心よりお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

2017 市政主要ニュース

注：ニュースは平成29年11月27日時点で選定したものです。

学校施設の構造体の耐震化工事完了

学校施設は、児童生徒の学習や生活の場であるとともに、地震などの災害時には地域住民の避難場所となることから、平成21年度から学校施設の構造体の耐震化工事（総事業費約72億円・75棟）に本格的に取り組んできました。平成28年度に実施した後藤ヶ丘中学校3棟を最後に、耐震化の必要があった小・中・特別支援学校すべての学校施設の工事が完了しました。

大雪で市民生活に大きな影響

強い冬型の気圧配置と寒気の影響により1月と2月の2度にわたり大雪となり、本市においても1月23日からの大雪では48cm、また2月9日からの大雪では40cmの積雪を記録しました。いずれも重大な人的被害や大きな住宅被害はなかったものの、白ねぎなどの農作物の被害や倒木、交通渋滞、公共交通機関の遅延などにより、市民生活に多大な影響を与えました。

米子駅南北自由通路等整備事業にかかる都市計画決定

米子駅の南北地区の連携、公共交通の利便性の向上などを図る米子駅南北自由通路等整備事業について、2月24日に米子駅南北自由通路および駅南広場を都市計画道路として決定しました。今後は、都市計画事業として整備を進め、平成34年度の完成をめざします。

米子市循環バス「だんだんバス」の車両をリニューアル

だんだんバスが、3月30日からデザインを一新して新車両での運行を開始しました。新車両は、車いすで乗り降りしやすい34人乗りのノンステップバスです。また、バス車内にはモニターを設置して、次のバス停留所の案内や運賃がわかりやすいように表示されています。



「史跡米子城跡保存活用計画」を策定

米子城跡が有する多様な価値を明らかにするとともに、史跡として適切に保存・管理し、後世に継承するための基本方針や取扱方法、今後の活用・整備に関する方向性などを示すために、市民やさまざまな分野の学識経験者で構成する策定委員会で検討を重ね、3月に計画を策定しました。現在、この計画を指針として、保存・活用・整備に向けた取り組みを進めています。



伊木市長、伊澤副市長が就任

野坂前米子市長の任期満了にともなう米子市長選挙が4月に行なわれ、新市長に伊木市長が就任しました。また3月議会で退任を表明された角前副市長の後任に、伊澤副市長が5月に就任し、「伊・伊コンビ」としてこれからの米子市政のかじ取りを担うことになりました。



米子インター周辺工業用地の整備事業開始

地域経済の活性化・雇用機会の拡大を通じた、少子高齢化や若年層の人口流出といった諸問題の解決を目的とし、市内に不足している工業用地を新たに米子インターチェンジ周辺（赤井手・今在家地内）に整備することとなりました。開発面積は約4.4ヘクタールを予定しており、2018年中に造成工事に着手し、2019年度の完成をめざします。

まちづくり戦略本部を設置

伊木市長の政策理念である「住んで楽しいまちづくり」を推進し、本市における喫緊の課題に機動的かつ部局横断的に対応することを目的として、市長を本部長とし、各部局長など17名で構成する庁内組織「米子市住んで楽しいまちづくり戦略本部」を6月に設置しました。

水道局新庁舎完成



水道局庁舎建設は、平成27年に敷地造成に着手し、6月30日に完成しました。築46年が経過し、耐震調査で「危険性が高い」と診断された旧庁舎から、鉄筋コンクリート造3階建、延べ床面積約3,300㎡の耐震性を持った建物となりました。また、ユニバーサルデザインを取り入れ、水害に備え主要な設備機器を2階以上に配置するなど、安心・安全で災害時の復旧拠点となる庁舎となりました。

高島屋東館の無償譲渡を受け入れ、活用案を公募

米子市は、株式会社米子高島屋から、米子高島屋東館と米子高島屋第一駐車場棟（敷地を含む。）の無償譲渡をする申し入れを受け入れました。角盤町エリアのにぎわいの創出と再活性化のため、これらを有効に活用していただく民間事業者に全て譲渡することを決め、企画提案を募集し、最終的に1件の提案がありました。今後は民間事業者への譲渡に向けて協議を進めていきます。